

知事 新春あいさつ

無限の可能性を

引き出すために

奈良県知事 山下 真



明けましておめでとうございます。昨年は、元日の能登半島地震に始まり、非常に暑く長い夏があり、ウクライナや中東での戦闘も激化し、穏やかな一年とは言い難かったように思います。一方で、大谷選手やパリ五輪の日本選手など若い方の世界レベルの活躍に勇気付けられました。

未来への種をまいた一年

奈良県に目を転じますと、私が知事就任後初めて編成した予算を執行し、県の発展に向けてさまざまな種まきができた年であったと思います。教育や子育て支援の分野では、私立高校の授業料の実質無償化を4月から始めました。これにより私立高校の入学者が増加しました。県立高校の「トイレピカピカ5か年計画」もスタートしました。公立小中学校の教員の業務負担を減らすために始めた県の新たな補助制度により先生の学校に配置することができました。不足する保育士を増やすための給与加算制度も県が新たに補助を始めたことにより、制度を導入した市町村が5市から22市町村に増加しました。



県立奈良北高校のトイレを視察

インフラ整備では、道路の環境改善のための「ならの道リフレッシュプロジェクト」の5か年計画が昨年からはまりました。また、県と県内の26市町村の水道事業の統合が4月から始まります。医療の分野では、西和医療センターの移転建替えや県立医科大学附属病院の外來棟建替えの計画策定が順調に進んでいます。

産業や観光の分野でも新しい政策がどんどん進んでいます。企業の新規立地や建物の増改築のための補助金制度を充実させ、ホテルの新規立地のみが対象だった補助金を既存建物の改修にも広げました。これらの制度により新たな投資がどんどん進んでいます。また、

企業の人材や用地の確保の支援、スタートアップ企業の応援などにも取り組んでいます。観光では、大阪観光局や多くの民間企業と連携協定を締結し、外部の力も借りて奈良の観光を盛り上げようとしています。

県議会や職員との議論も活発に

こうした政策を順調に進めるため、県議会議員の皆さまに私の県政の方向性と内容を繰り返し返し丁寧に説明しています。議会での議論も以前よりだいぶ活性化してきました。また、県職員の皆さまに頑張っていたことが必要なので、オフィスの環境を改善したり、無駄な仕事をやめて残業を減らしたり、私とのコミュニケーションを多く取ったり、若手の提案を採用したりと、さまざまな取り組みを行っています。



知事と若手職員の意見交換

総じて奈良県政は順調に推移していると思います。これも県民の皆さまのご理解とご支援があつてこそです。ただ、奈良県が持つ限りない可能性を最大限に引き出し、県民の皆さまに暮らしの豊かさを実感していただくための取り組みはまだ始まったばかりです。また種が花を咲かせ、実をつけるには、長い年月が必要ですが、その間、私と県職員が丸となつて粘り強い努力を続けるために、引き続きのご理解とご支援をよろしく願っています。今年が奈良県にとって、県民の皆さまにとって素晴らしい年となることを強く祈念します。